

カレーとうふちくわを 売り込みます！

鳥取商業高校 商業経済研究同好会



山口 遥さん 田中 恵子さん
Haruka Yamaguchi Keiko Tanaka

新しい味は授業から

高校生が商品開発し、広報宣伝に取り組んだ、隠れたヒット商品「カレーとうふ」を知っていますか？ 実はこれ、カレー味のとうふちくわのことなんです。これまでに7万本以上が売れているとのこと。

カレー味のとうふちくわ、このありそうでなかった商品は、鳥取商業高校の授業の中で生まれました。中尾和貴先生が指導する「課題研究」の授業で、昨年度の三年生たちが、鳥取独特の地域資産であ

る「とうふちくわ」を、どうやって県外の人にもっと食べてもらえるようになるかと考えて、新しい味を模索したのです。

開発品を試食した当時二年生の田中恵子さんは「50種類くらいの味があったんですが、まずいのもありましたね。食べるどころじゃなかった(笑)」、山口遥さんは「でも、カレー味のとうふちくわは単純に『おいしい！』と思いましたが」とそのときのことを話してくれました。

先輩の意志を引き継ぐ

市内でとうふちくわを製造販売する「ちむら」と共同開発し、市民のみならずにも人氣の「鳥商デパート」で試作品販売にこぎつけた「カレーとうふ」は、用意した100本がわずか50分間で完売。急ぎ追加発注し、最終的に2日間で450本が売れたのです。

「ちむら」とも協議し、一般販売に向けて検討が入りましたが、パッケージデザインや販路の開拓に時間がかかり、めどが立ったのが3月30日。



いなばのお袋市でも「カレーとうふ」は大好評。

先輩たちは卒業してしまい、「私たちが作ったカレーとうふを宣伝して！」と先輩たちに頼まれました」と山口さんは振り返ります。

授業から同好会へ

「授業」という形では効果的な宣伝活動ができないと考えた中尾先生と現在の三年生たちは、この取り組みを新たに発足させた「商業経済研究同好会」に引き継ぐことになりました。メンバーはすべて女性の16人。田中さんと山口さんはいつも宣伝の最前線で活

美の人脈 —文化をつなぐ人々—

「民芸」とは「民衆の工芸」の意味で、大正14年(1925年)思想家・柳宗悦やなぎむねよしらによって生み出された言葉です。無名の職人しやくじんたちによって作られた日用品のなかにある美を見出す民藝思想みんげいしゆきうにおいては、地域性もひとつの大きな要素であり、近代化のなかで急速に失われつつあった各地の手仕事の救いとなりました。

鳥取では柳の思想に影響を受けた医師・吉田璋よしだしやうや也の精力的な活動により、昭和6年頃から焼物、木竹漆工、織物、染物、和紙などあらゆる工芸品が再興、開発されます。なかでも木工品は、鳥取の豊かな自然から得られるケヤキやクリなどの堅材を用いた和洋融合の家具をはじめ、全国に誇る作品の数々を産出してきました。

鳥取の民芸木工の先駆けとして活躍した「虎尾光藝堂」の作品は、昭和11年に璋也が智頭・石谷家の食堂を民芸調に改装した際に納められたり、松竹で活躍した小津安二郎監督の作品に使用されたりと、今もそこかしこで出会うことができます。

やまびこ館で開催中の「美の人脈—文化をつなぐ人々—」で、ぜひ昭和初期の文化の風薫る鳥取を満喫してください。



(やまびこ館 学芸員 もりたあきこ 森田明子)

テーマ展「美の人脈—文化をつなぐ人々—」

日程：～11月24日(月)

会場：やまびこ館 1階特別展示室

入場料：一般500円、

小中学生・高校生・70歳以上無料

◆関連イベント

- ・日本映画の巨匠・小津安二郎も愛した
鳥取の民芸木工～映画「麦秋」鑑賞会
- ・智頭 石谷家住宅の食堂でおいしい昼食を！

※くわしくは23ページ参照

問い合わせ先

やまびこ館 上町88 (0857) 23-2140



取材の日は、鳥取カレー倶楽部のみなさんと打ち合わせ。

躍します。彼女たちのPR活動の格好の舞台となったのが、昨年4月に始まり、毎月第4日曜に鳥取駅前商店街のアーケードで開かれる「いなばのお袋市」。同好会のみなさんは、今年の5月に初めて参加し、手作りの市で、手作りの宣伝・販売に取り組みました。田中さんは

「鳥商デパートのときに、1日の売り上げが200本だったので、同じ数を売り出したんですが、同じものが200本も売れるかなあと心配だったんです。でも2時間で完売してしまいました」とうれしそうに話します。山口さんは「5月に完売したから6月は増やしたい、だけど雨で人が少ないから150本だけにしよう」と考えたんです」と、緻密な営業戦略を教えてくださいました。

カレーとうふは全国区に

この活動が注目されて、テレビや新聞で次々と同好会と

次の商品を模索

宣伝活動とともに重要なのが、さらに新しい商品の開発。やっぱり3年生の集大成は鳥

「カレーとうふ」が紹介されました。8月にテレビで全国放送されたら、売り上げが倍増したとのこと。「あるところで、『カレーとうふ』が売られているのを見た県外の観光客の人に『これかあ』と言ってもらえたんです」と感激する田中さん。山口さんは「ぜひギャル曽根ちゃんに『カレーとうふ』を食べてほしいです」と夢を語ります。

商デパートなんです。できれば新商品を出したいんですが、今は試行錯誤の状態ですね。次は食べ物じゃないものになるかもしれないですね。鳥取市内の企業とコラボレーションして、鳥取市を活性化させるものになりたいですね」と田中さん。「鳥商と言えよこれだ」と言えるものを作ります」と山口さんは意気込みます。

元気いっぱい的高校生たちが、鳥取に今までにない活気をもたらしてくれるかもしれない、そんなことを予感させられる彼女たちの活動は、これからも目が離せませんよ。